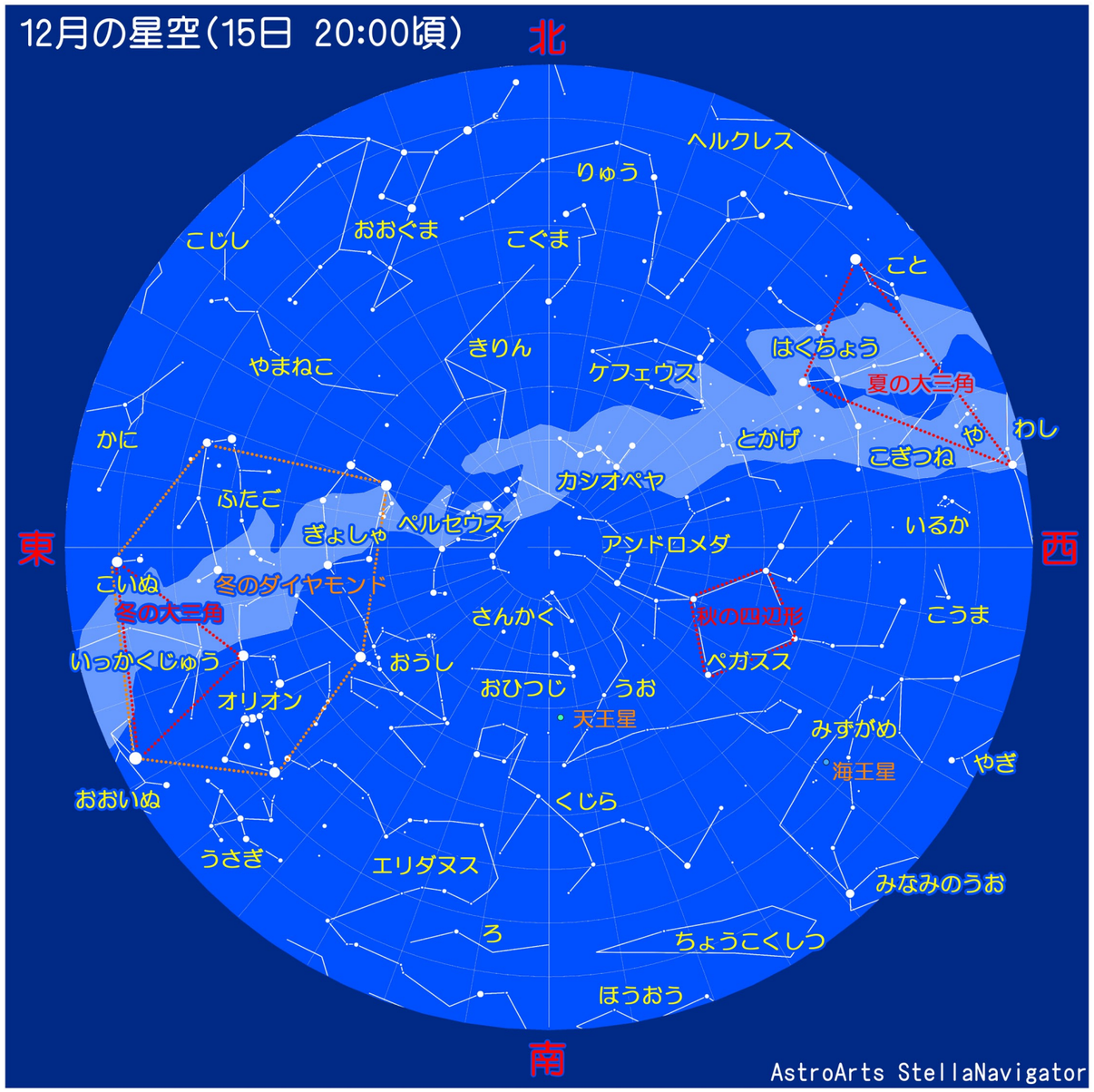
銀河の森天文台
2019年12月みどころ天体情報



今月のイチオシ！

☆M37（散開星団）

ぎょしゃ座にある明るい３つの散開星団のひとつで、その中でも星の密集度が高く、とても見ごたえがあります。

りくり望遠鏡では、視野一面を埋め尽くす星々をみることが出来ます。15cm双眼鏡でも星々が密集している様子が確認でき、7×50の双眼鏡では、星雲状に見えるその姿を捉えることが出来るでしょう。

距離：約4400光年

M37

月

		出	没
4日	上弦	12:12	23:09
12日	満月	15:53	06:27
20日	下弦	23:36	11:53
27日	新月	06:40	15:56

天文台から月を見ることができるのは1～14日頃、と28、29日頃、望遠鏡での見頃は上弦前後です。

距離：約38万km

天王星

太陽系の外側から２番目の惑星、天王星がおひつじ座に見えています。淡いグリーン色が特徴で、小さく見えますが、直径は地球の約4倍もあります。自転軸がほぼ横倒しになっているのも大きな特徴です。

太陽からの距離：約29億km

M45（散開星団）

「プレアデス星団」「すばる」と呼ばれている星団で約100個の若い星で構成されています。双眼鏡の視野に広がる姿は宝石箱のようです。枕草子に「星はすばる」と書かれているほど古くから親しまれてきた天体です。

距離：約410光年

M42（散光星雲）

オリオン大星雲と呼ばれ冬を代表する天体のひとつです。望遠鏡では、星雲の複雑な模様を観察することができます。中心部には生まれたばかりの４つの星（トラペジウム）が四角く並んでいます。

距離：約1400光年

M76（惑星状星雲）

M27「あれい状星雲」を小さくしたような形に見えることから、「小あれい星雲」と呼ばれています。

NGCカタログでは2つの明るい部分のうち、北側がNGC651、南側がNGC650と二つの番号がつけられています。

距離：約2000～6000光年

NGC7662（惑星状星雲）

アンドロメダ座にある惑星状星雲で、青い雪玉（Blue Snowball Nebula）という愛称がついています。名前のとおり、きれいな青色が印象的です。

距離：約2000～6000光年

アルマク（重星）

色違いの重星では、はくちょう座のアルビレオが有名ですが、このアンドロメダ座のアルマクも負けてはいません。オレンジ色と青色の星が寄り添う姿がとても綺麗です。

ちょっとマニア

• Mel20（散開星団）

ペルセウス座のα星、ミルファクの周囲には、肉眼でも多くの星が見えていますが、これも立派な散開星団です。15cm双眼鏡でもはみ出してしまうほど広範囲に星々が広がっています。

距離：約600光年

その他おすすめ

- M31（銀河）
- M35（散開星団）
- M52（散開星団）
- M77（銀河）
- NGC2392（惑星状星雲）
- ガーネットスター（恒星）

12・1月の銀河の森天文台カレンダー

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

開館時間
14:00～22:30
（4月～9月）
13:00～21:30
（10月～3月）

休館日